

能楽研究所彙報(昭和57年4年～58年3月)

雑誌名	能楽研究 : 能楽研究所紀要
巻	9
ページ	216-222
発行年	1984-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/00020346

能 楽 研 究 所 彙 報

(昭和57年4月～58年3月)

〔紀要『能楽研究』の発行〕

昭和58年3月31日付で研究所紀要『能楽研究』の第八号を発行した。A5判、二四〇頁。所員の論文のほかに、新出資料『丹後細川能番組』の翻刻をはじめとする所外の方々の労作を掲載することができ、大幅な増頁となった。内容は次の通りである。

北七大夫長能をめぐる諸問題(上)

表 章 一

北七大夫長能の演能記録集成

表 章 七

由良家蔵能楽関係文書目録(下)

竹本 幹夫 二

『丹後細川能番組』(翻刻・解説)

宮津市教育委員会
中嶋利雄・松岡心平 三

『四座役者目録』研究会の報告(1)

一三

「観世方笛之次第」

天野 文雄 一五

「大蔵太夫之事」

表 ぎよし 一四

牛尾玄笛と牛尾藤八

牛尾 美江 二三

葛野九郎兵衛

山中 玲子 二三

研究展望(昭和56年)

小田 幸子 二三

能楽研究所彙報

二三

〔能楽資料集成の発行〕

わんや書店と提携して昭和48年から継続刊行している「能楽資料集成」は、既刊の十一冊に続いて左の一冊を刊行した。

『観世流古型付集』(昭和57年8月30日発行) 第12回配本

西野春雄所員の校訂。まとまった能の型付としては最古に属する『妙佐本仕舞付』(底本は鴻山文庫蔵)と、『宗節仕舞付』(底本は観世宗家蔵)、および細川三斎手沢本らしい「江戸初期仕舞付三種」(底本は肥後中村家蔵)を翻印。解説と索引を付す。B6判二四四頁。定価四千元。会員頒価三千四百円。

〔創立三十周年記念事業〕

法政大学能楽研究所は昭和27年4月に発足しており、57年度が創立満三十周年にあたるので、それを記念し、57年10月2日(土)、宝生能楽堂において二種の能会を催した。第一部は学内向けで、「法政大学教職員の夕」の一つとしての「能楽鑑賞会」。第二部は学外向けで、「^{世阿弥本}雲林院試演の会」である。後者については別項に詳記したので、前者について略記しておく。

第一部の「能楽鑑賞会」は午後一時半から、学内の教職員や家族の希望者、及び旧教職員や校友など約五百名を招待し、表所員の解説の後、狂言「萩大名」と能「清経恋之音取」が演じられた。狂言はシテ大名野村万之丞、アド太郎冠者野村耕介、アド亭主野村又

三郎の出演。能はシテ浅見真州(39年3月、法大文学部日文科卒)、ツレ観世曉夫、ワキ宝生閑、笛一噌仙幸、小鼓北村治、大鼓佐伯実、地謡野村四郎・山本順之・若松健史・永島忠修・浅井文義・清水寛二・西村高夫・岡田晴義、後見観世栄夫・北浪昭雄の諸氏である。観客のほとんどは初めて能楽に接したようで、研究所の仕事を理解してもらうのにすこぶる有効だったように思われる。

〔観世寿夫記念法政大学能楽賞〕

12月4日に開かれた選考委員会(委員は増島宏・横道萬里雄・広末保・小山弘志・表章)で、第四回の(57年度)受賞者として松本恵雄氏と能楽鑑賞の会が選ばれ、12月7日付で中村哲総長名義の通知を各方面に発送した。授賞理由と受賞者の主な経歴は左の如くである。

。〔受賞者〕 松本恵雄(まつもと・しげお)氏

〔授賞理由〕：近年の氏の舞台は、57年10月10日の「大原御幸」(近藤乾三の会)をはじめ、すべてが能楽の特質を深く印象づける好演であった。シテとしての芸格の高さ、地頭としての力倆ともに抜群であり、今や斯界を代表する人材と言えよう。

〔主な経歴〕：宝生流シテ方。日本能楽会会員。大正4年生れ。東京都出身。先々代宝生九郎門下の逸材として知られる松本長の二男。先代宝生九郎・野口兼資・近藤乾三に師事し、昭和28年に「道成寺」、33年に「翁」を抜く。人材の多い宝生流の中でも早くから俊秀として知られ、43年に芸術選奨新人賞を53歳で受賞し、「新人とは？」と話題になったこともある。ケレン味のない品格の高い芸風によって代表的なシテ方としての評価が高

いのみならず、地頭としての力倆にも定評がある。昨年は「自然居士」「半部」「鷺」「鸚鵡小町」等を、本年は「大原御幸」の他に「小鍛冶・白頭」「蟻通」「錦木」等を舞っている。

。〔受賞者〕 能楽鑑賞の会(代表委員、西哲生氏)

〔授賞理由〕：若手の研究家・評論家有志によって企画・運営され、全流にわたるすぐれた演者を揃えた番組によって、水準の高い能楽の公演を定期的に主催し続け、能楽の普及に大きく貢献してきた。十周年記念講座「演能の流れ」の企画も意欲的である。

〔主な経歴〕：東京能楽鑑賞会の精神をうけて、昭和48年3月、若手の能楽研究家・評論家有志によって発足した会員制の能楽鑑賞団体で、年4回(毎回、狂言一番・能一番)の公演を行っている。能・狂言とも、流派・世代にとらわれず、広い視野から実力派の演者をそろえ、精撰された番組を組んで、つねに水準の高い舞台を提供し続けてきた。第一回(桜間道雄「角田川」、山本東次郎「文相撲」)から第四十回(観世鍔之丞「求塚」、野村万之丞「金岡」)までの曲目と配役を見ても、よりよき演能の姿を求める同会の穩当・着実な歩みがうかがわれる。現在は会員二五〇余名。代表委員西哲生氏、運営委員西野春雄・橋本朝生・羽田昶・松本雍・八寫正治氏。

授賞式は12月15日午後6時から市ヶ谷の私学会館で行われ、松本氏夫妻や西・西野・松本・八寫氏夫妻、羽田・橋本氏をはじめ、故寿夫氏の御両親雅雪夫妻、第二回受賞者の野村万之丞氏、第三回受賞者の森茂好氏、田代慶一郎・萩原達子氏や増島宏・広岡治哉理事をはじめ多数の大学関係者の出席のもとに、中村総長から

賞状と賞金(25万円)が授与され、レセプションに移り、歓談の後、午後8時半に散会した。

〔猿楽文庫(残存本)の受贈〕

観世流改訂謡本を刊行して旧来の謡本を革新し、また遺著『古今謡曲解題』(大8)などによって番外曲研究の基礎を作った丸岡桂氏(一八七八—一九一九)が蒐集された猿楽文庫の残存本が、57年5月28日丸岡圭一氏より当研究所に寄贈された。同文庫は大正12年の関東大震災に灰燼に帰したと伝えられ、氏の没後に編まれた『丸岡氏猿楽文庫蔵書目録』『古今謡曲解題』付録)によって内容が偲ばれるだけであった。しかるところ、震災以前に別置されていた一部の書が火難をのがれて健在だったことが、能楽書林社長丸岡圭一氏(桂氏の次男故大二氏の御長男)によって発見され、西野所員が『古今謡曲解題』の補訂を進めている縁もあって、能楽研究に役立つならと、同氏が能楽研究所に寄贈してくださったものである。受贈本は猿楽文庫の蔵書票のある資料15点、蔵書票のない資料23点(この中には能楽関係以外の図書や震災後に入っただと思われる資料も若干まじる)、計38点で、『古今謡曲解題』執筆のための原稿の一部(『名寄謡曲解題原稿ノ一、総曲名』)などは研究史上の貴重な史料と言えよう。数百点といわれた中のごく一部にせよ猿楽文庫の健在は誠に喜ばしく、丸岡圭一氏の御芳志に深く感謝申しあげる。受贈図書は次の通り。

蔵書 番号	書名	刊年・刊者	冊数
1、三五	元禄外別三十番謡	元禄三年山本長兵衛板	一冊
2、三	元禄山本旅本外百番(外ノ七)	元禄八年山本長兵衛板	一冊

3、四	元禄十年山本大本(高砂の組)	山本長兵衛板	一冊
4、五	太鼓頭附謡(上ノミ)	貞享四年梅村弥右衛門板	一冊
5、二一	貞享二年山本本(養老の組)	山本長兵衛板	一冊
6、二二	天和三年山本本(放生川の組)	山本長兵衛板	一冊
7、二八	貞享三年和泉屋本(鶴羽の組)	和泉屋五兵衛板	一冊
〔蔵書目録では、二〇八番は小謡独稽古「天保十年宋榮堂板 一冊」			
8、二九	元禄二年西村本(高砂の組)	西村七郎左衛門板	一冊
9、三三	小謡 正本屋(刊年不明)	正本屋小兵衛板	一冊
10、三三	小謡	菱屋治兵衛板	一冊
11、三七	宝永二年山本旅本(上ノミ)	山本長兵衛板	一冊
12、四〇	大宝小謡	安永六年菊屋長兵衛板	一冊
13、四六	万王小謡福寿海	柏原屋清右衛門板	一冊
14、五一	座興謡作替文句上下	明治三十五年檜常之助板	二冊
15、五三	正徳六年山本本(芦刈の組)	山本長兵衛板	一冊
〔以上、15点が猿楽文庫の蔵書票のある分。うち三九・三七・四〇・四二・五三の5点は蔵書目録に散佚書のため欠号としている〕			
16、	元禄三年六月山本長兵衛本(十四・十七・十九欠)		十七冊
17、	元禄十年五月山本長兵衛本(高砂の組)		一冊
18、	天保十一年孟春山本長兵衛本(吉野天人の組)		一冊
19、	貞享元年十月高橋清兵衛本(進藤流謡本。入れ本)		七冊
20、	宝生流謡本寛政版(放生川・大蛇の組)寛政十一年宝生大夫		二冊
21、	宝生流謡本寛政版(難波・蟻通・賀茂・氷室・岩船・枕慈童の組)		六冊
22、	元禄三年弥生谷口・伊勢屋本(下掛拾遺大成謡)(十五欠)		十九冊
23、	文化十二年林鐘河内屋本(下掛り謡本。海士の組)		一冊
24、	蘭曲上下 外上下(秘密蘭曲(二冊)と当流外蘭曲(二冊)の覆刻)		四冊

- 25、玉淵集 宝暦丁二年今村義福藏板 柏原屋清右衛門刊 五冊
 26、^絵入狂言記 嘉永元年七月鷲頭辰三郎他三店刊 六冊
 27、元和卯月本覆製「芭蕉」(見本「氷室・兼平・芭蕉・大会・たつた」) 一冊
 28、謡曲「柳島」^{〔文化八年本の複製喜多流節付〕} 昭和十五年山村浅次郎刊 一冊
 29、^{名寄}謡曲解題^{〔九岡桂自筆原稿。和綴本〕} 一冊
 30、幸流小鼓手附本全 幸悟郎関 大正三年椀屋謡曲書肆刊 一冊
 31、広益俗説弁 井沢長秀著 文化九年加賀屋版 二十冊
 32、神祇要編^{〔中臣被六根清浄全神道大意唯受血脉〕} 神武本紀全 須原屋茂兵衛他刊 二冊
 33、近世奇跡考^{上下} 一名、続骨董集 山東京伝著 松山堂刊 一冊
 34、^{校訂}翁草首卷 神沢貞幹編 明治三十九年五車樓書店刊 一冊
 35、珍書刊行叢書第一冊^{〔増補旧本〕} 洞房語園(大正四年珍書刊行会) 一冊
 36、都羽二重拍子扇^{一、二、四、五、六、七} 〔文政三年序〕大正十三年名月会刊 六冊
 37、藤のしない^{〔嘉永二年序〕} 大正十三年春日神社々務所刊 一冊
 38、莊園目録 八代国治編 昭和六年再版 吉川弘之館 一冊

〔雑報〕

所長の留任

文学部長が兼務することを原則とする当研究所の所長は、加来彰俊所長が文学部長に再任されたので、57年度も引き続き所長に就任した。加来所長の専攻はギリシャ哲学。

西野所員の教授昇格と国内留学

57年4月1日付で西野春雄所員が文学部教授に昇格した。また国内研究員規程により57年4月1日付で一年間の国内研究員を命ぜられた。前半は研究所創立三十周年記念能の諸準備に留学を半ば返上、後半(十月三日以降)は業務を離れ、陽明文庫を中心に関西の諸家・諸機関を訪ね、関連資料の蒐集・調査・研究を進めた。

小田所員の就任

57年4月1日付で小田幸子氏が兼任所員に就任した。国内留学の西野所員に代って研究所業務を担当する。氏は法政大学大学院博士課程の単位取得を修了し、武蔵野女子大学や聖徳女子短期大学非常勤講師等を勤め、53年12月には表所員と共同で能楽資料集成9『金春安照伝書集』の校訂・解説を担当している。

ツビカ・セルペル氏の留学

イスラエルの演劇人ツビカ・セルペル氏は、57年度の法政大学国際交流基金による外国人招聘研究員として、一年間当研究所を本拠として日本の古典演劇全般の研究に従事した。

国文学研究資料館のマイクロ撮影

国文学研究資料館から鴻山文庫蔵上掛り写本謡本マイクロ撮影の許可要請があり、57年暮に高橋写真による撮影が行われた。撮影分は同館でも閲覧可能となるはずである。

研究会活動

能楽懇談会(代表委員、小山弘志氏)の研究部会と能楽研究所が共催してきた研究会は、57年1月から、研究発表をまじえつつも遠い謡曲または番外曲を読むことになり、会場も80年館会議室を使用している。参加者は約二十名前後。58年1月からは能楽懇談会から分離した形で活動している。

〔所員研究業績〕

表章

北七大夫長能の書状(上・中・下)

『喜多』57年夏・秋・冬号 57・7、57・11、58・2

〈求塚〉作者観阿弥説を疑う

『能楽鑑賞の葉』40号

57・12

長命猿楽考

永島福太郎先生
退職記念

『日本歴史の構造と展開』

58・1

北七大夫長能をめぐる諸問題

『能楽研究』8号

58・3

北七大夫長能の演能記録集成

『能楽研究』8号

58・3

西野 春雄

『観世流古型付集』(能楽資料集成12)校訂・解説

わんや書店

57・8

『日本古典音楽大系』第二巻能・狂言

講談社

57・11

「日本音楽の歴史と理論」篇のうち曲目解説と詞章注釈(稿)を担当

『音楽大事典』第4巻 能の項目執筆(横道氏と) 平凡社

57・11

世阿弥本「雲林院」の試演をめぐる

『観世』

58・3

片桐 登

宝生座の歴史近世初期の宝生座を中心に(十九・二十二)『宝生』57・5・9・11・12

田口 和夫

〈鳥説教〉と〈魚説法〉

『華泉』35号

57・5

芸能に描かれた女性像——狂言

『上方芸能』77号

57・7

狂言〈政頼〉考——鷹狩り・古事談

『能楽評論』52号

57・8

『鷲流狂言伝書(保教本)』覚書

『能楽評論』54号

57・12

竹本 幹夫

笛吹くあとの事

『鏡仙』293号

57・5

毛利藩能役者譜録小考

『日本古典文学会会報』92号

57・7

「居グセ」小考

『鏡仙』302号

57・11

由良家蔵能楽関係文書目録(下)

『能楽研究』8号

58・3

小田 幸子

△口頭発表△能の装束付と型付

中世文学会春季大会

57・5

『邯鄲』の傘

『能楽タイムズ』4月号

57・8

世阿弥の祝言能

『芸能史研究』80号

58・3

『放下僧』演出史

『能楽資料センター紀要』6号

58・3

研究展望(56年)

『能楽研究』8号

58・3

〔受贈図書〕

単行本(受入順 *印は寄贈者)

立命館 創立五十周年記念誌

*立命館大学能楽部OB会

昭57

荒尾の風流 荒尾市文化財調査報告五

*荒尾市教育委員会

昭56

美と宗教の発見

梅原 猛著

*集英社

昭57

古面

京都国立博物館編

*岩波書店

昭57

能と狂言の世界

*小林 責・増田正造著

講談社

昭57

西行全集

久保田 淳編

*日本古典文学会

昭57

講座 夏目漱石 第五巻 三好行雄他編

*田代慶一郎 有斐閣

昭57

室町絢爛の日々(日本史の舞台5)

児玉幸多編 *集英社

昭57

琳派の意匠(日本の美と文化14)

村重 寧編 *講談社

昭57

沖縄資料センター目録(研究資料1)

*法政大学沖縄文化研究所

昭57

郷土資料目録(研究資料2)

*法政大学沖縄文化研究所

昭57

京都薪能三十年史

*京都能楽会

昭57

映像音響資料目録

*情報管理施設国立民族学博物館

昭57

調査報告集3

*国立民族学博物館国内資料調査委員

昭57

夕顔 *武田太加志著

三月書房

昭57

閑吟集宗安小歌集(新潮日本古典集成)

*北川忠彦校注 新潮社

昭57

佐渡鷲流狂言(資料二)

*真野町教育委員会

昭57

続九段下より

*佐藤芳彦著

わんや書店

昭57

漢字の書体(資料)

田中 有編

*大修館書店

昭57

世阿弥申楽談儀(岩波文庫再版本)

*表 章校注

岩波書店

昭57

- 観世三代 清次・元清・元雅 *小林艸之介著 私家版 昭57
 芸能の科学 14 芸能論考Ⅶ *東京国立文化財研究所芸能部編 同研究所 昭57
 国文学複製翻刻書目総覧 市古貞次・編 *日本古典文学会 昭57
 十年の歩み 大曾根章介・編 *国文学研究資料館 昭57
 東大寺修二会の構成と所作 別巻 平凡社 昭57
 日本歴史の構造と展開 (芸能の科学¹³ 芸能調査録Ⅳ) *東京国立文化財研究所芸能部編 担当者佐藤道子 山川出版社 昭58
 芸道 ワキ宝生と能面の歴史 *石川県立能楽文化会館 昭58
 さかゆる拍子(石橋披キ記念) *近藤宗田 昭16
 十年の歩み *石川県立能楽文化会館 昭57
 僕の新作能 能楽台本集 *堂本正樹著 私家版 昭30
 能・歌舞伎・僕達の芸術 *堂本正樹著 陽雲編集部 昭32
 千五郎狂言咄 茂山千五郎著(*権藤芳一編) 講談社 昭58
 荒尾の風流 *吉川周平 風流節頭保存会 昭56
 雑誌その他
 青山語文 第12号(昭57) 青山学院大学日本文学会
 跡見学園短期大学紀要 別冊第2集・第18号(昭57) 同短期大学
 出光 第353号(昭57) 出光興業KK
 梅若 第250号~第255号(57・5~58・3) 梅若会
 永青文庫 第4号~第8号(昭56) 永青文庫
 演劇学 第23号(昭57) 早稲田大学演劇学会
 謳楽 第32巻4号~第33巻2号(57・4~58・2) 謳楽会
 岡大國文論稿 第10号(昭57) 岡山大学文学部国語国文学研究室
 学苑 第517号(昭58) 昭和女子大学近代文化研究所
 学習院大学国語国文学会誌第25・26号(昭57・58) 国語国文学会
- 観 昭 第13巻4号~第14巻2号(57・4~58・2) 観昭会館
 観世 第49巻4号~第50巻3号(57・4~58・3) 檜書店
 季刊邦楽 第30号(昭57) 邦楽社
 かんろう 第243号~第249号(昭57・58) 大阪能楽鑑賞会
 喜多 昭和57年春・夏・秋号(昭57) 十四世六平太記念財団
 きたぐに 第164号(昭57) 北国川柳社
 橘香 第28巻4号~第29巻3号(昭57・58) 梅若研能会
 芸能文化史 第4号(昭56) 芸能文化史研究会
 研究紀要 第9号(昭57) 橘女子大学
 国語国文研究 第67号~第69号(昭57・58) 北海道大学国文学会
 国文学 第59号(昭57) 関西大学国文学研究室内国文学会
 国文学研究資料館報 第18号(昭57) 国文学研究資料館
 国文学論集 第20号(昭57) 山梨大学国文学研究室
 国文学論集 第16号(昭58) 上智大学国文学会
 神戸学院大学紀要 第12・13号(昭57) 神戸学院大学教養部
 金剛 第37巻2号~第38巻1号(昭57・58) 金剛雜誌会
 金春月報 第91号~第92号(昭57) 金春月報編集部
 椎園 第一輯~第五輯(昭12~14) *竹本幹夫 川瀬一馬
 女子大國文 第91号~第92号(昭57) 京都女子大学国文学会
 女子大文学(国文篇)第34号(昭58) 大阪女子大学国文学研究室
 尚謡 第37号~第38号(昭57・58) 「尚謡」発行所
 書陵部紀要 第33号(昭57) 宮内庁書陵部
 人文科学科紀要 国文学・漢文学 第1~21号 東京大学教養学部
 人文学論集 第16号(昭57) 仏教大学文学部学会
 人文研紀要 第1号(昭57) 中央大学人文科学研究部

- 聖心女子大学論叢 第59～60号(昭57) 聖心女子大学国文研究室
清葉 第35号～第36号(昭56・57) 清葉会
鍊仙 第297号～第306号(昭57・58) 鍊仙会
伝統芸能 第321号～第332号 京都伝統芸能懇話会
塔 第22号(昭57) 国立音楽大学附属図書館
東北文学論集 第5号(昭57) 東北文学調査会
日本古典文学会々報 第91号～第95号(昭57・58) 日本古典文学会
能 昭和57年4月～58年3月 観世能楽堂
能 昭和57年4月～58年3月 京都観世会館
能 能楽協会報 第27号(昭57) 能楽協会
能楽タイムズ 第361号～第372号(昭57・4～58・3) 能楽書林
能楽の友 第184号～第195号(昭57・4～58・3) 能楽の友社
能楽評論 第50号～第55号(昭57・58) 能楽評論
富士論叢 第27巻2号(昭57) 富士短期大学学術研究会
仏教大学研究紀要 第66号(昭57) 仏教大学学会
文学史研究 第23号 大阪市立大学国語国文学室内 文学史研究会
文献ジャーナル 第22巻3号 富士短期大学出版部
文林 第16号(昭56) 女子大学国文学研究室
宝生 第31巻4号～第32巻3号(57・4～58・3) わんや書店
みやび 第16号(昭58) コミュニティサービスKK
山辺道 第27号(昭58) 天理大学国語国文学会
緑岡詞林 第6号(昭57) 青山学院大学日文院生の会
わかめ 第9号(昭57) 耕春会
早稲田大学演劇博物館 第47・48号(昭57) 早大演劇博物館
坪内博士記念

〔編集後記〕 観阿弥没後六百年、そして国立能楽堂が開場した昭和58年の年度末に第九号を刊行する。表所員の論文は前号に引続き北七大夫長能の生涯をめぐる全面的な再検討で、筆鋒愈々鋭く次回で完結の予定。片桐所員の論文は第六・七号に続き、猿楽日吉座の活動と大夫の事蹟を解明し、今号で完結した。西野の論考は近代謡曲史の基礎をなす考証。竹本所員の解説は由良家文書目録の総括として芸統や文書の性格と価値などを位置づけている。『四座役者目録』研究会の報告(2)は、都合により三宅晶子氏の論考のみとなったが、次号には諸氏の論考数本を予定している。能界展望は前号でお断りしたように56・57年の二年分である。なお研究展望は都合により58年分と合せて次号に廻すことにした。報告として創立30周年記念^{世阿弥本}による「雲林院」試演の会^{による}の概要を載せた。今年も10月21日に第二回の試演能を企画し準備を進めている。前回同様、各位の御支援をお願い申しあげる。(西野 春雄)

昭和五十九年三月三十一日 発行

能 楽 研 究 第九号

102 東京都千代田区富士見二一七一一

〇三一二六四一九八二五

編集兼
発行者

野上 法政大学能楽研究所
記念

所長 加来 彰 俊

印刷所

三和印刷株式会社
長野市川中島一八三二一一